

優秀賞

お母さんが、大事件です

茨城県 常陸太田市立太田小学校五年 西野 りほ

早朝、五時五十分。

「りほちゃん。お・き・て。」

と言ってお母さんの声で目が覚めました。どうしたのかなとお母さんを見るといつもと様子が違います。とてもつらそうな顔に、私は驚いてしまいました。

さらに、救急車をよんで欲しいとお母さんに言われ、私の体は、石のように固まってしまいました。

「救急車なんて、電話できないよ……。」

涙があふれそうになりました。勇気を出して一、九と番号を押しましたが、言葉が出ません。

結局、お母さんの口元に受話器を持っていてしまいました。つらそうに話すお母さんを見て、やっぱり私が電話をすればよかったと、心の中で何度もお母さんに謝りました。救急車を見送りながら、とても心細く、不安な気持ちで一杯になりました。

単身必任のお父さんも、東京から急いで帰ってきました。おじいちゃんもおばあちゃんも心配してかけつけて来ました。私は、ますますお母さんのことが心配で、心配でたまらなくなりました。

楽しみにしていたミュージカルも、友だちと張り切ってやろうと思っていた統計グラフも、何だかどうでもよくなってしまうました。私の心にとってもさびしく冷たい風が吹いて、おさまらないのです。おばあちゃんが、一生けん命に作ってくれた食事ものを通りません。お母さんが心配で、私の元気も消えてしまいました。

いつもなら、うるさいなと感じていたお母さんの言葉も、なぜか早く言っただけでたまらないのです。

「机の上が、ちらかっているわよ。」

「宿題は、おわったの。」

何でもない言葉も、私には、あたたかい家族を感じ

る言葉だったのだと気づきました。

幸い、お母さんは、少し入院しただけで家に帰ることができました。毎日の疲れがたまってしまったので、大きな病気ではないことを知り、心からよかったですと思いました。

お母さんは、退院しても、まだ完全に元気になったわけではないので、私は、できるだけお手伝いをしようががんばりました。洗たく物を干したり、食器を片付けたり、おふろを洗ったりしました。お手伝いをするうちにお母さんが、毎日こんなに大変なことを一人でしていることに気がつきました。家族のために忙しい思いをしているんだなと思うと、以前、いい加減な気持ちでお手伝いをしていたことが、はずかしくなりました。お母さんが体調をくずしたことで、家族が助け合うことの大切さや家族そろって生活できる喜びを知ることができました。この大事件は、私の心を大きく成長させてくれた気がします。

向こうから嬉しい声が聞こえてきました。

「絵の具が出るわよ。ちゃんと片づけて。」

